

第3学年保護者様

加古川市立両荘中学校
校長 神吉 直哉

全国学力・学力状況調査について

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握・分析し、改善を図ることを目的に、本年度は、国語、数学、英語の3教科が、4月18日（火）と6月15日（月）に実施されました。

以下の結果は、本校の現状を分析してまとめたものです。掲載している結果は、学力や学習状況の一部であることを踏まえつつ、この結果を基に、学校と家庭が連携しながら、これからの時代に求められる資質、能力の育成を図っていきたいと考えています。

1 【学力調査の結果】各教科の正答率

教科(項目)	正答率(%)	
	全国	兵庫県
中学校国語	69.8%	69%
中学校数学	51.0%	52%
中学校英語 (書くこと・聞くこと)	45.6%	47%
中学校英語 (話すこと)	12.4%	—

今年度3年生の平均正答率は、左記のとおりですが、本校においては、すべてにおいて、全国・兵庫県より高い正答率を示しました。

(優れているところ)

「国語」

- ・文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする。
- ・事象や行為、心情を表す語句について理解する。
- ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解する。
- ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く。
- ・古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容をとらえることができる。
- ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える。

「数学」

- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。
- ・四分位範囲の意味を理解している。
- ・累積度数の意味を理解している。
- ・数と整式の乗法の計算ができる。

「英語」

- ・まとまりのある英語を聞いて、情報を正確に聞き取ることができる。
- ・日常的な話題について、話の概要や必要な情報を理解することができる。
- ・指示された内容に対して、自分の考えを英文で書くことができる。
- ・「聞くこと」「書くこと」「話すこと」の分野では、正答率が全国・県の平均に比べて高かった。

(課題とされているところ)

「国語」

- ・話の内容をとらえ、知りたい情報に合わせて効果的に質問すること。
- ・文章の中心的な部分と付加的な部分について、叙述をもとにとらえ、用紙を把握すること。
- ・読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。
- ・文脈に即して漢字を正しく書くこと。
- ・聞き取ったことをもとに、目的に沿って自分の考えを書くという問題での無回答率が全国・県に比べて高い。

「数学」

- ・ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること。
- ・空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることに対する理解。
- ・結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明すること。
- ・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。

「英語」

- ・日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な状況を読み取ることが難しい。
- ・まとまりのある文章を読んで、要点を捉えることがやや難しい。
- ・「読む力」が全国平均と比べてやや低かった。

2 【生活状況調査の結果】

【優れているところ】(全国・県よりも10%以上、上回っている項目)

- ・自分には、よいところがあると思いますか。
- ・将来の夢や目標をもっていますか。
- ・新聞を読んでいますか。
- ・今住んでいる地域の行事に参加しますか。
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。
- ・各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。
- ・学級の生徒との間の話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができましたか。

【課題となるところ】(全国・県の平均と比べて10%以上、下回っている項目)

- ・毎日、同じぐらいの時刻に起きていますか。

3 【学習における今後の取り組み】

【国語】

- ・「話すこと・聞くこと」の正答率が全国・県に比べてやや低くなっている。様々な分野の文章を読む機会を設け、筆者の主張や登場人物の心情、自身の考えを話し合い、聞きながら表現できる活動を通じて、学力の定着を図る。
- ・「書くこと」・「読むこと」の正答率が高いため、様々な文章にふれ、分析する場を積極的に設けたい。

【数学】

- ・全体的に「図形」の分野の正答率が他の分野に比べて低く、特に証明をする問題では苦手とする生徒が目立つため、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図り、証明していく力を身につけさせる。
- ・さまざまなデータや資料を読み取り、説明する力を身に付けることが苦手なためグループの中で発表させることで各人の発表機会を増やし表現力を磨く。

【英語】

- ・「読むこと」の正答率が全国・県に比べてやや低くなっている。様々な分野の英文を読み、必要な情報を読み取る力を高め、学力の定着を図る。
- ・ALTと連携して、「話す」「書く」活動を充実させる。
- ・授業中での演習時間を増加する。

4 【考察】

今年の3年生は、地域行事に積極的に関わり、学校生活も落ち着いている様子が見えます。また、自分の思いや考えをまとめたり、他の生徒と意見の交流を行う中で自分の考えを深めたいという意欲を備えており、学習面をはじめいろいろな面で今後の成長が期待できます。一方で、生活リズムが乱れがちであるという点に課題がみられます。

今後、家庭との連携をより深めて、生活リズムの改善に取り組むことで、今以上に何事にも主体的に取り組む意欲を育成できると考えられます。